

様式第2号（第7条関係）

会議録

会議の名称	第1回川島町行政改革推進委員会	
開催日	令和元年6月20日（木）	
開催場所	川島町役場 中会議室	
議題	(1) 行政改革の取組について (2) 協議テーマについて (3) 今後のスケジュールについて	
公開・非公開の別	公開（傍聴者0名）・非公開・ 一部非公開	
非公開の理由		
出席者	委員	猪狩委員、今井委員、河邊委員、中村委員、後藤委員、山崎委員、小林（紀）委員、高松委員、伊藤委員、小林（道）委員
	町職員	事務局：政策推進課 藤間課長、横山主幹、三角主査、品川主任 担当課：総務課 道祖土主幹、喜多川主査
配布資料	会議次第、委員名簿、資料1～6	
審議会等の内容・概要		
1 開会	<p>(事務局より会議の開会にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言委員名は記載しない旨で委員より了承を得る。)</p>	
2 会長選出	大森前会長の後任の猪狩委員が会長に選出される。	
3 会長あいさつ		
4 議事	<p>会長：議事に入る前に、議事録署名委員を指名する。中村委員と山崎委員にお願いする。</p> <p>(1) 行政改革の取組について</p>	

事務局より資料1、2を用いて説明。

委員：過去の議事録を確認しても、行政改革のあり方を見直す表現は無いが、どのような経緯か。

事務局：前会長と調整の上決定した。

委員：前会長は不在だが、その対応で良いか。大綱の廃止についても説明を受けていない。

事務局：全委員を訪問し、説明した。

委員：何年も大綱を作成してきたのに廃止して良いのか。

事務局：昨年度までにその議論をまとめた。

委員：大綱に基づく行動計画のあり方について前会長と議論し、この提言になったのだと認識している。ただ、会議が開催されず、説明不足ではあった。

会長：手続は大切なことで、各委員の意見を開示していただき、その上で次に進めるところとする。

委員：点数制の評価手法を改めるという部分は賛同する。

委員：新しいテーマについて話し合うのであれば、その方が良い。

委員：当会自体が評価のための会議になると建設的ではない。やり方を変えるべき。

委員：評価は難しい。効果測定がきわめてやりやすいようなテーマになっていくて、数値に表さなくても判断できるなら良い。

委員：当町の行政改革が地方自治体の見本となるような、従前にこだわるのではなく、新たなものを創る方が良い。実行性のある議論にしたい。

委員：町の行政は多岐に渡っているので、テーマを絞りたい。

会長：その他発言はあるか。

委員：やり方が民間に比べるとルーズでラフである。計画ひとつを3年かけてやるところや、出来ていない目標値を変更していた。また、アクションプランも出でこなかった。業務改革になっていないから、焦点を一つに絞るというのは違和感がある。

会長：評価をする疑問点や難しさや感覚として理解できない等様々な課題があったのが皆さんの共通のご理解なのかなと思う。当時抱いていた様々な委員会での議論の在り方を解決しなければならず、そのためには1回リセットをし、もう一度構築しなおすのが大事で、それが到達点となったのではないか。皆さんから

いただいた様々なご意見はそのまま生きていると確認させていただいて、それを受け、答申の意図するところは、『より適切な、もっと実効性、中身の在る、正当な議論が繰り返されて、我々委員会にとっての議論の到達点が答申できるような、そんな議論にしてください』というように理解したいと思うが、如何か。よろしいか。

今後の議論の進め方についてもきちんと進めていきたいと思う。

(2) 協議テーマについて

事務局より資料3、4、5を用いて説明。

会長：人材育成というテーマについて意見を聞きたい。

委員：いい方向だと思うが、町の職員の思想が変わらない限り、町の発展は無い。また、他のテーマ案があったのであれば聞きたい。

委員：プロの人材を育てるのが課題である。

委員：テーマを絞るのは良い。

委員：人材育成についてこちらも勉強し、議論していきたい。

委員：新しい何かをやれるような職員が育成できると良いテーマになっていく。

委員：人材育成と偉そうに言うよりも誰でも来れるような町役場にするのが良い。

委員：いかに優秀な人材を育てるというのが組織の価値になる。川島町としてどういうふうに人材をつくるか、仕組みをつくるなければならない。民間では日常的に上司と部下が面接を繰り返し、目標達成のために共に頑張る。他にも、企画、実践、発表を通した育成や外部研修もある。人材育成の手法を研究し、人材育成に取り組んでもらいたい。

委員：この会に何が期待されてるのかわからない。テーマ自体は重要なことなので異論はない。

会長：議論の方向性については、この後説明がある。その前に、今回のテーマ選定についての質問への回答は。

事務局：テーマ選定については、窓口業務の民間委託や公共施設の総合管理など挙がったが、課題を解決できる人材を育成することから設定した。

事務局：かつての行政改革でいうコスト、人員削減は達成してきた。今後について考えた時、「人」を変えていこうと議論した経緯がある。

会長：それでは、以降、人材育成の方向で進めていくこととする。

資料4、資料5を用いて現在の人材育成の状況を説明する。

委員：基本方針の見直しについて議論するのか。我々の具体的な取組内容は。

会長：本会は町からの諮問に基づき、川島町の人材育成について議論する。議論の範囲も我々が議論するところによる。町民の期待を実現できる人材を育成するため、本会としての見解をまとめていく。

委員：業務改革の推進に適合するか。

会長：行政改革は、自治体経営や管理を効果的、効率的、あるいは生産的にするために行うものなので、適合すると考える。

委員：人材育成基本方針に従ってどんなことを実施し、その成果を検証し、翌年にどういう取組をしたかがわかる資料はあるか。

事務局：取組内容については、次回提示する。

委員：人材育成は、どのレベルまで行ったかである。人材育成は採用されてからずっと続いている、定年まで。その点を意識して仕組みづくりをしていきたい。

委員：具体的な内容の方がわかりやすい。

委員：少子高齢化が進み、職員も減る中で人材育成を進めるのは難しい。

委員：この基本方針に基づく取組で、うまく行っているところと、そうでないところを確認した上で議論したい。

委員：職務執行基本姿勢は、民間企業にも置き換えられる内容である。行政改革は民間企業で言うとマネジメント改革。広い意味がある。

人材育成は研修となりがちだが、業務命令で参加するのと自発的に参加するのでは大きな違いがある。

人材育成を通じて、民間企業のような役所になってほしいと考える。

委員：理念や方針は理解できるが、現場への展開が見えない。また、評価ができるものが無いと単年のになってしまふ。

委員：教育や人事制度が基本方針に含まれているので、テーマの絞り方は注意したい。

委員：基本方針についての町の評価は。強みは何なのか、何が課題か、弱みなのか、そこを分析してどの点に焦点を当てるかが示されれば攻め口がわかる。この基本方針から何段階かブレイクスルーしたものが本来の施策である。行政のプロと言うが基本方針に示す職員像がどういう職員であるか、キャリアごとに身に

付けるべき能力がどこまで定義してあるのか。

委 員：職位ごとの能力について記載があるが、どこまで意識しているのか。川島を愛する職員についても、当然とは感じるが課題なのかと感じた。

会 長：事務局には本日の意見を整理してもらいたい。本日の意見をリスト化し、今年度に答申まで到達できるものに絞って議論を進めていきたいがいかがか。

委 員：異議なし。

委 員：本日の意見を議事録で確認とあったが、方法は。

会 長：会議録を委員に確認してもらう方法としたい。

事務局：そのように対応する。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料6を用いて説明。

会 長：当会の答申が町の政策や予算に反映されるので、しっかり議論を進めたい。

5 閉 会

署 名	中村 文彦 
	山崎 宣佳 